



國は世界の九分通りに亘つてゐて、愈々その數を増し、その程度を高め
つゝあるのである。若し夫れ之れを此儘に放任せんか、世界は果し
て如何に成り行くであらう。労働者は何時までも資本家の轍の下に
唯々諾々として夏蟻の如くに働いてゐるだらうか、彼等は死んでゐ
るのでない。眠つてゐるのだ。だから必ず一度は目醒める時が來
る。その時こそ労働問題は勢ひ此處に起らざるを得ないのだ。

△労働問題とは何ぞや

然らば労働問題とは一體何であるか。最も簡明直截に之れを定義
するなら「労働階級の雇用状態改善の問題」これが即ち労働問題であ
る。若し労働者——貴賤労働者——の待遇をめぐらしても善くして、所謂
上級社會比にありもその應當を實現ならしめるのを計劃せしり
やうといふのが労働問題元來の主旨とする處である。素より之は一
朝一夕で片付くべき性質のものではなく、その雇用状態に改善を加
へる必要有るものゝ存する限り、労働問題は無くなる事はないので
ある。故に此問題を研究せんと志す者は、先づ現在の社會において
改善を要すべき諸種の弊害を指摘し、然る後之が救済策を講究しなけ
ればならない。併も斯うした弊害なるものは今日始めて起つたもの
では素よりない。その淵源する處甚だ古きものがあるのである。私は
達は労働問題の起源に就いて先づ説明しなければならない。

△労働問題の起源